

保育士試験 「教育原理」 過去問分析 出題予想（傾向と対策）

※幼稚園免許取得者は免除される科目

はじめに 試験問題の解答には文章や文脈による“流れ”をつかむことが大切です。以下の文章に何度も同様の表現が出てきますがご理解ください。ケアレスミスは「分かった！！」と思った瞬間に問題を全部読むことを中止したり、読み返すことをしなかったりするために発生するケースが多いのです。とくに事例は日常の経験から解答できる問題がほとんどといっても過言ではありません。試験は受験して合格するだけでなく保育についての必要な知識が自然と理解できるので、勉強していてとても充実した気持ちになります。当然合格した時の達成感と言うまでもありません。

1. 解答形式 過去 50 問中

組合せ形式 22 ○×形式 11 不適切（正）形式 15 年代・略称形式 2

○×は絞り込み 組合せは文章をよく読み文脈で 不適切問題はよく読んで確実に

2. 6 割 12 問（10 問出題は 6 問）得点のための出題出所内訳（キーワード）

A 法律 1 1 箇所 教育基本法 4 箇所 学校教育法 2 箇所 幼稚園教育要領 4

B 著書 合計 4 問

C 人物（国内外） 合計 3 問

※この科目では国内、国外人物は避けて通れないし、逆にこの指針の特徴をつかめば確実に合格へすすめることになる。

3. 国内人物

本来覚えるべき鈴木三重吉、城戸幡太郎、橋詰良一、倉橋惣三が過去 5 回で 1 度しか出ていない。そろそろと思うべきか。驚いたことに緒方洪庵、吉田松陰、伊藤仁斎が 5 回中 2 回も出題されている。押さえておいたほうがいいだろう。テキストの最初の部分に一覧表があるのでざっと目を通しておいってください。

4. 海外人物

原理と称される科目は人物が欠かせない。特に海外のカタカナ名にはイメージと文字とが連携しなくて困る。教育と言えどという人物は押さえておこう。フレーベル、ペスタロッチ、モンテッソーリ、ソクラテス、デューイ、ルソー、ロック、ピアジェ、エレン・ケイ、ブルーナー、パーカースト。例えばロック（岩）は申し訳ないのだが“のっぺらぼう”のイメージで“白紙”を連想するようにしている。文章でイメージする方法もあるけれど、個人的にはカタカナが何かに例えることができるといい。他に語呂がよく“コメニウスは図絵”と意味もなく覚えたものもある。コメニウスが大きな本を背負っているようにも思ったのかもしれない。

れない。

5. 略称など

持続可能な開発のための教育→ESD

文部科学省 生きる力（新学習指導要領）

OECD（経済協力開発機構）生徒の学習到達度調査（PISA）の結果から

6. 科目としての難易度

個人的にはこの科目が文章の流れや推測で絞り込む要素が少なく、記憶する人物、法律の序文をある程度覚えておく必要があるので 9 科目中もっとも難易度が高いと思っている。時には空海や、聖徳太子までおでまししてくるうえに、社会的養護とセットで合格点が必要なのでさらに厄介だ。ただ、経験的に過去問を 10 回分くらいまで遡って 3 度解いてみると、なんとなくだが出題の意図が分かってくるような気がしたのを覚えている。

ご注意：この出題予想で試験が合格できるわけではありません。受験する人のモチベーションアップに貢献することで、受験勉強をより楽しく、効率的にしたいという思いで作成しています。

参考テキスト

「保育士 完全合格テキスト 上・下」翔泳社

参考サイト

文部科学省

参照法令

憲法 教育基本法 学校教育法 幼稚園教育要領

注意キーワード

国内外人物 ドルトン・プラン ヘッドスタート（米国）(2/5) パーカースト